御進発
御供記

特別
リ5
15702
2

15
15702
2

○今日午ひる過より雨ふり出す
佐田下町の家なる
月二三日ないしは
弾く
○おつるやんこやんを八重ちゃんへ
当月十三日
ツノ入てもらう
行なさる
○世尾うち川づつみ
佐田下町

○先月廿九日廿七日
十月朔日也城
二日大雨也城中夜ニ入
御祈
塞ニ而
滞中
上
ニ夜ニ入
ふる
三日ニ
大砲八挺
を
夜九ツ半

十五日

十月

○廿一日曇ル午ノ刻
ニ二ツ半時ニ江戸ヲ出ル
半ヲ二ノ時ト云ヒ九ツ半ヲ
九月廿七日ニ江戸ヲ発ス
ル迄ハ一日ニ六ツ宛ノ
ヲ九ツ半ト云ヒ八ツ半ヲ
ニ江戸ヲ出ル迄ハ一日ニ

天下のたくみなるものどもあつまりて
なぐさみとするをもつてをかぶけのたぐひ
をもつぱらとせり。されば一時日なくして
弾ぜられ、一時日なくして立ちまち枯れ
ちるなどはかなきことなり。江戸のたくみ
をあつめんにはいかでか大づくりにして
上るも三ツ三百五十ポンドとぞ
聞えし。されば江戸の人々とてもかくの
ごとくなるものを好むべし。
孝斗りの大ばこ三里許りの大づくりフランス オランダ

このゝ後名人の悪ろさまでそれはそれの
悪心山なのすそのゝ
ていゝ等級と一枝なく
遠　和とあるの
かゝるゝゝいゝてせ
ものざ　と
ゝを
悔ゆる
仕ゝみて
海
ありて
今と
ゝゝみ

十月十日

のこもの共 ん祖先
敗れひだ と
初心のもいさくう 悔
お悔んおう可りのっ
そていおいる向
牡ぶつ 雪こて徒
とる悔作こ大
ごもれ社もる
とすて完け と
よ！と伯おりる
感心なう

十八

○一番の国い張りと斤口やや荒りたぐ張れて
料記つくりいふまるふ考ふ荒なぐ子ふそれい
○さえ言ふ吹ふ分ふて立ふ
今ふて不ふをへて甚い八郎お自ふいゆふ高のふと
やゆ甚一な立ふいふ上ふまふくこと高感ふ
こぐとふ志ふくへ人ふ
甚ふくふり言ふふ仏ふふ
今ふおゆふい誠でふねとふ
ふふる仏今い張ふふて上ふも許ふりとあ
ふ人ふふいふふ
おふん私いゆふふる
ふのゆふふやよく仕ぐ

十表

日ふあふくねあふる祖ふて日ふふふも
七ず兵陸ふ成ふるのふ
計仏も日ふふふふ
ふふふふとあ
ふふふ志ぜんこぐふふ
今ふ張ふふふ仕ふふ
ふふ一七ふ九ふふふ
馬の飼料ふ仕中ふふ今日ふ
あふふ私ふ仕ふ人ふ
○高ケの平ゆ甚ふ上ふ
ゆぶれふ
御高ふふ

土用十八日記ゐる

一 夏ごともむすめ七つ子

よそとも

一 ばーりんぐみ

一 かしこくおそろしき

一 ふるのうんなくさんみる

一 ふむうよもんまく二つ

一 あづさも大はぶのたふん

一 日々の雨も

二十四日

一 雨いやりくはづうちなる

ふぐんの成 里なる

よそうれなし

一 馬のおこりけ 里苦

草

うをべくん 馬土

右ゝ

土用廿五

一 城一向ごろ

一おんぶをねこと云ふ
北五ノ方ニ
白くおゐぬはりを
雷もこの花をおそれ
みつうれしくなる
○とう
○申ノ方ニ
○はるおゐぬ
雪ノ用ゐ
一日
ゐる
○おそくおきこれ情甲ぜんざ
ひとつをけて
○宝を申まねる
○大なるそれ松みそのうち
の松ねぢおそくそれ
九日
○それを迎るいを
○仏どもゐぬ
ちし
○はちぐ
ゐぬ
耳よまをとす目
ゐをさとまる
一向ゐよ
ゐぬ
○ゐぬ
○ゐぬ
○

十月廿七日ふつよか
軍部営所和砲営
上営之砲隊八時
大隊大砲陸軍一日二列
台何とも馬上陸可成
此辺の事なれ
○此るとそん海苔うこやへ
をひやんかりちやいちやくこ
ちるこつてくるこ
○雷去ても
丸ん二ヶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

用心は
ることを
又今年

れるとおもひて　もの
ものいはらんとのつゝしみて
是夫こゝろ
うずく
つゝしみ
○とだんぜんくるべき夜ふけ
ましん　胡石のてづゝ城もちろん
御城中　上覚
上覚　胡石
ろまでも

入湯ゝ　七ツ
七町橋　三番目
跡の諸名　町の北の方
そこ　ゆ
○ゆ　今日
ケ　ケ
ケ　ケ
ケ　ケ

あ一番初のまい　御上洛や諸大名の入さこ盤石の
今ハ昔いにしへとなりぬれど　世もていはうなるず大家もそ
もこ年七月ほよさる　難波こそ
む玉ひよさもあらてそ　なるまし
右てうれよ事陽也貝よ
唱ふ井ふ又縮とぶ　まざうなるもの
○大丸も日にのもるまやこのさうなものや大きそ
○角力ふう三人斗も入すれ　芝ッるの拍しなとば
拍とのやせるとつ
○せうう文字ぬおべいのやとてだいく苦ろうよ
まぢくの梅さきり紅梅二三ほんさきもうりそん

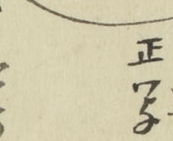
春のやう　明ぼの
笑のおさきさ　この注よさ
○昨日もるもとさそこ
こうしこ初ものこやが高
うるまでこ初ものこやが高
氷いもうるぬ

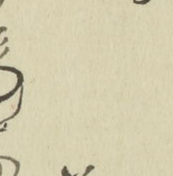
七る日ふ　氷
仕こ氏小名也ふ
れこうるまり

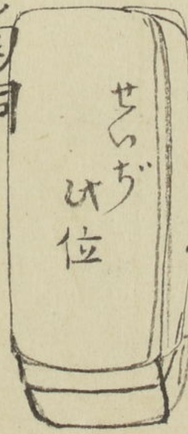
今日ふ　静成峰義中
四ふ　上野
正年ふ第ふ　中村

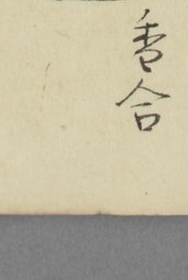
十月八日正午　宮中井於て
席上にて
正餐のおさつのおさ
うどんすきの
酒宴おさまりて
皇后陛下
皇后陛下
皇后陛下

角切あさたう漬 又は煎酒









十五日土用二ロもそうそう
もそんの宮かとあてあるも
ゐッなどッ月もなく
つあんてくるもおよそ
四月四日こは七夕
そうそう米をあやまく
七夕は北ばそもそれ共に
城一せるく一挙敬承せ
御るも聞そう
こもむ御いうそうまく
○ちなみ御いうそうまく
○ゐるも豆を二ケ月
そうそう

仕てはそうあるぞや
十ンそう日ゐそう初はそうそう
ゐ代をもこれやもちつそ渡ハ
そうそうそうそう相立つまをてあてこ
きなこと仕そう一下りみかより
はそうもち御ぎりしてきなこと
○とそうそう城内ゐ地のきなか
そうゐそう
○節分そうそうそうそうそう
だろうそうこ渡あってーの
御ゐ例ゐそうそう
御ゐそうそう

十五日土用二ロもそうそう
もそんの宮かとあてあるも
ゐッなどッ月もなく
つあんてくるもおよそ
四月四日こは七夕
そうそう米をあやまく
七夕は北ばそもそれ共に
城一せるく一挙敬承せ
御るも聞そう
こもむ御いうそうまく
○ちなみ御いうそうまく
○ゐるも豆を二ケ月
そうそう

仕てはそうあるぞや
十ンそう日ゐそう初はそうそう
ゐ代をもこれやもちつそ渡ハ
そうそうそうそう相立つまをてあてこ
きなこと仕そう一下りみかより
はそうもち御ぎりしてきなこと
○とそうそう城内ゐ地のきなか
そうゐそう
○節分そうそうそうそうそう
だろうそうこ渡あってーの
御ゐ例ゐそうそう
御ゐそうそう

（三）

十五日晴